

敦賀まつり

9月1日(日)～4日(水)

1日(日)

イベント広場 ※雨天中止

10:00～21:00 神楽広場・商工会館前

カーニバル大行進 ※雨天中止

15:00～21:00 相生通り・神楽町1丁目通り

2日(月)

お祭り広場

13:00～21:00 相生・神楽お祭り広場

宵山巡行

15:30～21:00 神楽町1丁目・神楽町2丁目通り

「宵山」と呼ばれる山車の上で子どもたちが日本舞踊を奉納します。

3日(火)

神輿渡御 ※小雨決行

8:00～16:00 市内一円

大人神輿と子供神輿が市内を巡行します。大人神輿は12時に氣比神宮前に集結し、13時から出発式を行います。

御鳳輦巡幸

9:00～14:30 市内一円

氣比神宮のご神体を奉った神輿「御鳳輦」が武者行列などを伴って市内を巡幸します。

4日(水)

山車巡行 ※雨天中止

9:30～16:00

敦賀消防団つるが鳶隊演技 ※雨天中止

15:00～15:30 氣比神宮交差点

お祭り広場

16:00～21:00 相生お祭り広場

17:00～21:00 神楽お祭り広場

民謡踊りの夕べ ※雨天中止

19:00～20:30 本町1丁目・本町2丁目通り(国道8号)

市民約2,000人が参加する民謡踊りです。

雨天中止の場合のお知らせ

カーニバル大行進、民謡踊りの夕べの実施については、当日、行政チャンネルの放送と敦賀まつりホームページにてお知らせします。

その他のお知らせ

- 敦賀まつり当日は周辺駐車場が大変混み合うため、公共交通機関等を利用してお越しください。
- 一部行事については、変更となる場合があります。

問い合わせ先



敦賀まつり振興協議会
(商工貿易振興課)
☎ 22 - 8122

▲最新の情報は専用HPよりご確認ください

敦賀市立博物館秋季テーマ展

『おくのほそ道』と敦賀

8/27(火)



10/14(月・祝)



休館日

- 毎週月曜日、9/17、9/24(9/16、9/23、10/14は除く)
- 臨時休館(展示替え) 10/16、10/17、11/26、11/27

俳聖・松尾芭蕉が記した『おくのほそ道』で、東北・北陸を巡る旅の最後に訪れたのが敦賀です。

古くから交通の要衝として栄えた敦賀で、芭蕉は地元の文化人と交流し、その体験は『おくのほそ道』という日本の古典文学を代表する作品に描かれました。

今回の展示では、芭蕉が残したと伝えられる杖や、旅に同行した洞哉が色ヶ浜で書き残した『色ヶ浜遊記』、芭蕉が泊まった宿に残された、芭蕉をしのぶ人たちが残した資料をはじめ、近世敦賀の俳諧関係の資料を展示します。

『おくのほそ道』にある
敦賀で詠まれた句

芭蕉が敦賀に到着したのは、元禄2年(1689)旧暦の8月14日、中秋の名月の前の晩でした。芭蕉は、氣比神宮で月の美しさを感じ入り、
月清し 遊行のもてる 砂の上
と読みました。

この「遊行のもてる砂」とは、鎌倉時代、遊行宗(現在の時宗)の他阿真教上人が氣比神宮に参拝する人々のために砂を運び、ぬかるむ参道を整備したという故事にならい、その後、歴代の遊行上人が氣比神宮に砂を運ぶ「お砂持ち神事」を行っていることからきています。月に照らされた境内の神聖な美しさを現代に伝えてくれる句です。

その翌日、芭蕉が楽しみにしていた名月は、雨が降って見る事ができませんでした。

名月や 北国日和 定なき

この日の逸話はありませんが、終日敦賀の俳人、文化人たちが交流していたのだらうと推測されています。

その翌16日は良い天気となり、芭蕉一行は、敦賀の豪商であり俳人である天屋五郎衛門のはからいで、舟で色ヶ浜に向かいます。

色ヶ浜では、平安時代末期の歌人・西行法師が和歌に詠んだ「ますほの小貝」を拾い、夜はささやかな宴会を楽しんでいます。



▲芭蕉句碑(色ヶ浜)

寂しさや 須磨にちたる 浜の秋
浪の間や 小貝にまじる 萩の塵

小さな薄紅の貝がらと混じり合うこぼれる萩の花びら、目を転じれば砂浜の景色は染み渡るような秋の気配を漂わせています。歌枕・色ヶ浜の場面は、300年以上前の、芭蕉が遊んだ浜辺の浪の音まで聞こえてくるようです。

【同時開催】

天狗党資料展

江戸時代の終わり頃、水戸藩から脱藩、尊王攘夷の旗を掲げて挙兵するも、敦賀で処刑された天狗党に関する資料を展示します。
敦賀市指定文化財となっている武田耕雲斎の肖像画や、耕雲斎が使っていた陣羽織など、貴重な資料を紹介いたします。



▲武田耕雲斎所用陣羽織

【会期中のイベント】

武田耕雲斎等墓現地見学会

国史跡「武田耕雲斎等墓」周辺整備が完了することから、現地見学会を実施します。

- 場** 10月12日(土) 10時、11時(2回)
武田耕雲斎等墓駐車場
- 定** 各30人(先着順)
- 内** 武田耕雲斎等墓ガイドダンスと旧鯉蔵について、学芸員が解説します。